英国炭鉱労働者の闘い

歴史的な輝しい勝利

賃上げ獲得した背景の力は？

イギリス炭鉱労働者の、賃上げ闘争における輝かしい勝利の報が伝えられ、わが国の、春闘をめざす炭鉱労働者をはげましているが、〝炭労情報〟の最近号（四月七日発行）は、闘いと勝利についての、イギリス炭鉱労働組合、A・シュミット議長署名入りの〝報告〟を紹介した。次は、その抜すいである。

イギリスの石炭ストライキは、記録的水準の貯炭分布のなかで、一九七二年一月九日開始された。そして、一月三十一日までに、全国炭鉱労働組合（NUM）のピケットは、三つの発電所を閉鎖し他の六十七発電所の出力を低下させた。しかし政府はなお、五～六週間の電力供給に、十分な石炭のストックを維持していた。

二月三日、工業相は、政府に、効果的なピケット行為のため、状況が悪化しつつあることを報告したが、政府は非常事態を宣言することを拒否した。

二月八日、政府は必要とされる場合の、軍隊を含む非常に広はんな力を与える、非常事態を宣言した。

二月十一日、週三日の、大規模な電力カットが、全工業生産にしのけられ、家庭用電力制限は十五パーセントに引上げられた。

そして、次の週には、百六十万人が一時解雇された。

この段階に至るまで、政府は紛争に関係するのを拒否していた。

しかし、緊急事態の発展にともない、それまで、賃金引上げを八パーセント以内に制限しようとしていた政府が、ウイルバーフォース卿を長とする、調査委員会を設立した。この調査は、二月十五日開始された。

二月十七日、工業相により、電力制限の強化が公表された。

全国炭鉱労組執行委員会は、この報告を拒否し、二月十八日夜から十九日にかけて、さらに十一項目の譲歩をかちとった。

このストライキは、全国炭鉱労組の歴史における、もっとも偉大な勝利である。

ストライキの成功は、三つの主要な要因に帰せられるであろう。

第一に、過去五年にわたる、相対的生活水準の実質的低下に堪えた、炭鉱労働者たちの団結と決意

第二に、大需要家への石炭の動きを阻むために、諸発電所に張られた全国炭鉱労組ピケラインを越えることについての、他企業労働組合員、とくにトラックの運転手たちの拒否。

第三に、ストライキ破壊のための強硬な行動をとるのは、政治的に不得策だと、政府に判断させたほんな、世論の同情。

ストライキにおける発電所のピケットは、イギリスの労働組合運動の歴史上、おこったことがなかった。何万という炭鉱労働者たちは、主要発電所を有するイギリスの各地におもむき、そこで、地方の労働組合員、学生、理解者たちのところに泊めてもらった。

中央電力庁長官は、かれらの発電所が包囲されてしまったとこぼし、炭鉱労働者には、発電所をピケットする権利はないといった。

しかし、全国炭鉱労組の方針は、できるだけ早急に、問題を切迫した状態にもちこむことであった。

ストライキは、生活水準の回復という目的を達した点では、一つの勝利であったが、全国炭鉱労組は幻想をもってはいない。

組合は、政府を不断に監視し、政府が石炭庁に与えねばならなくなった緊急補助金を、閉山計画のため使わせないようにしなければならない。

炭鉱労働者の国際的連帯は、イギリスへの外国炭の輸出阻止となって維持された。このすばらしい協力について、お礼をのべさせていただく。

× ×

三川で日刊新聞誕生

その名は〝みかわ〟、足どり順調

▼…この三池みの賃上げを。（第五号）

で、日刊新聞が誕生した。その名は〝みかわ〟。

名前が示す通り、三川指導部の発行。

去る十日、その第一号をもってスタート以来、確実に日刊が守られている。

おもな記事を、見出しからのぞいて見よう。

――皆んなで生活権を勝ちとろう。（第一号）

――七二年 春闘 ZアンドA。（第二号）

――人間無視の三川鉱。さらに不便になる脱衣場。（第三号）

――春闘で大幅賃上げを。炭鉱労働者に、生活できる賃金をよこせ。（第四号）

――大型炭車が脱線。（右同）

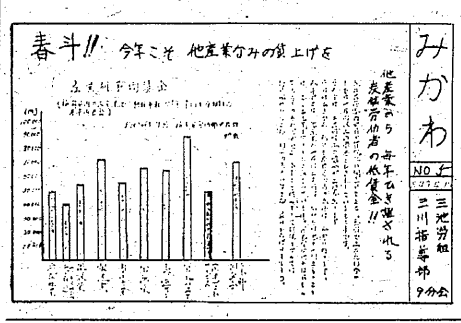
――所長に会わせよ。（右同）

――春闘。今年こそ、他産業な

この新聞、編集発行は、甲方―乙方―丙方―常一番―坑外九・十―同十一のまわりもち。月・火・水・木・金・土の六日を、以上の六つに分けた。

もちろん、〝みかわ〟の発行は次々に当面する闘いに、三川の全職場を結集することに目的があるが、別のねらいは、まだ新聞発行できていない職場分会に、この共同行動の中で援助を与えること。

▼…早くも、鉱側から記事に対して抗議がくるなど、反応もあった。前進せよ――日刊新聞〝みかわ〟。



でまかし許さず闘う

会社は〝態度〟改めよ

四山指導部の闘い発展 人道問題の〝熱中症〟

現在、四山指導部では、重大問題化してきた〝熱中症〟をめぐって職場闘争がまき起こっているが、同指導部では、このほど全体的な意志統一を行ない、「熱中症など出さない職場・環境づくり」をめざし、具体的な要求をつきつけて闘ってゆく。

まず、四山指導部の要求は次の通りである。

(1)坑内温度を、二十八度以下にまたカタ度を十以下にせよ。

(2)温度三二・五度以上、カタ度七以下での作業は中止せよ。

(3)公私傷者で、坑外で作業している人についても、症状に合わせて配慮せよ。一律に〝基準方数〟をふりかざしての勤休処分など、許すことができない。

(4)たとえC級作業者たりとも、必ず全員一時間の休憩がとられるよう、強力な指導を行なえ。現在では、休憩時間そのものが、取れない状態にある。

(5)当面、とりあえず次の措置をとれ。

イ、全切羽に、一台以上のクーラーを増設せよ。

ロ、高温個所で作業させる場合は、賃金増と休憩時間の特別設定を行なえ。（具体例は略）

四山鉱における熱中症の問題はすでに〝人道上の問題〟とされるまでに至っていて、白鳩診療所で問題を重大視し、また玉名労働基準監督署もその実態調査に乗り出してきている。

それぞれ、次のような見解を述べている。

白鳩診療所・久保田医師の見解

私の診た限り、患者は明らかに熱中症である。

熱中症の原因は、高温・多湿の個所で労働することにより、多量の発汗のため、塩分の不足をきたし、体温を調節する神経が狂い、〝熱けいれん〟などの症状を生むのである。

今日の食糧事情から、〝ビタミン欠乏症〟などあり得ない。

玉名労基署の見解

今日まで、〝熱中症〟についての件の申請がなかったので、炭鉱でそれが発生するなどとは思ってもいなかった。それが多発しているとすれば、人道上の問題だ。

業務上傷病と認定できれば、傷病手当など、さかのぼって支給しなければならず、しばらく待ってもらいたい。

会社の態度

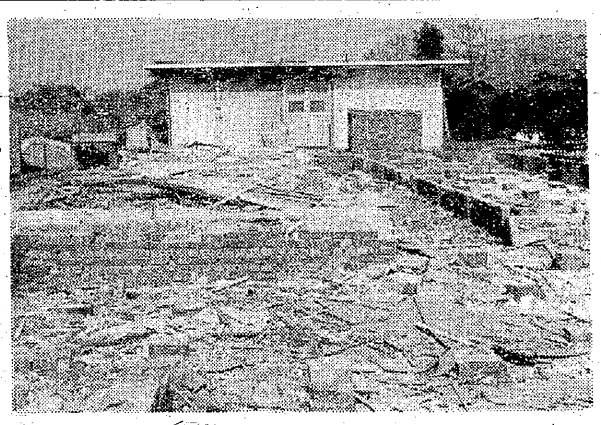
このように重大問題化した熱中症について、会社側はなお次のように態度をかえようとしない。

(1)温度三二・五度、カタ度七の現場は、熱中症が出るほど悪い環境とは思わない。

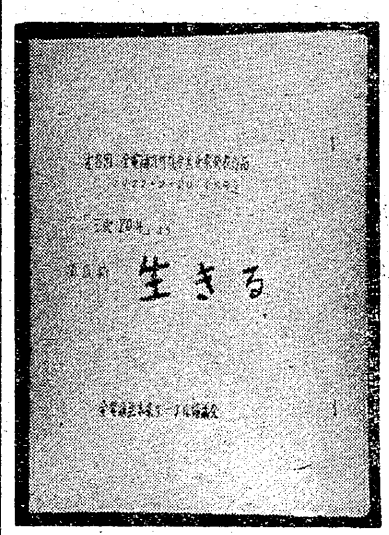
(2)それはビタミン欠乏症だと思うし、そのような傷病には業務上傷病の〝現認症〟を出した例はない。

右のような会社の態度にも、その後いくらかの変化が見られこそすれ、すべて場当り的な対策に止まり、問題の根本的な解決は巧みに避けている。

四山指導部では、「CO患者に対する攻撃とまったく同じだ。CO闘争同様、あくまで闘う」といっているが、事実また「抵抗なくして安全はない」。



ほとんど解体されてしまつた、平井診療所。閉鎖合理化提案後、これは手まわしのよいこと。どうやら「赤字」というのはただの口実で、会社の底意は三井グリーンランドの拡張と見たが……？



全電通熊本県サークル協議会の台本〝生きる〟

三池の闘い継承し

闘う

来組の埼玉建労青年部

田畑昭五さんを団長とする〝埼玉県建設労組〟の青年部員九人が去月十八―十九の両日、交流のため来組した。

この会もすでに例年の行事の一つとなっているもので、参加者も年ごとにふえ、今年は全員で八十八人にまでふくれあがった。

時間は十分なかったものの、組合員・主婦と交流、二日目は全交流を総括後、熊大にCO患者を見舞い、東西に別かれて帰っていった。

新港町社宅（港務指導部関係）に民泊、心からうちとけ交流して帰っていった。

一同は、「三池労組の闘いをふまえ、その成果を継承するとき、この地の反合闘争を強化するだろう。この自覚をもって、長期展望の中で前進しよう」、と誓っているが、五千円のカンパに感謝は尽きない。

埼玉建設労組青年部の九人の皆さん、ありがとう。

長崎、大分から

全通青婦部来組

全通労組＝長崎・大分両青婦部が主催し、去る八―九の両日、三池に一泊二日の日程で〝三池に学ぶ会〟が開催された。

部厚いあの本――〝みいけ二〇年〟を熟読、その中から題材をひき出したといい、三池のお株をすっかり奪った感じ。

曲も〝地底のうた〟〝三池の主婦の子守うた〟〝燃やせ闘魂〟〝人として生きるために〟、となつかしいものばかり。がんばれ、全電通熊本サークル協議会。

全電通の若者がんばれ！

三池の闘いを構成詩でうたう

去る二月二十日のこと、大分で〝第八回全電通九州総合文化祭〟に、全電通熊本県支部の〝サークル協議会〟に結集している若い労働者仲間が、構成詩の〝生きる〟で出演、目を見はらした。

それもそのはずで、題名こそ〝生きる〟とされているものの、実は三池炭鉱労働者の闘いを、ナレーションと合唱とで大胆にうたいあげたもの。